

出題分析		
試験時間 120 分	配点 200 点	大問数 4 題
分量（昨年比較）	[減少] 同程度 増加]	難易度変化（昨年比較） [易化] 同程度 難化]
<p>【概評】 難易度については、やや易から標準問題まで幅広く出題されている。内容については、基本的な内容が出題されており、その理解力が問われた。また、例年に比べると計算量が少なく、取り組みやすい問題が多く出題された。今回も昨年同様、理系との共通問題が 2 題出題されている。</p>		

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
1	微分法（接線の方程式）	2 つの曲線の共通接線を求める問題。計算量も少なく、取り組みやすくなっている。基本的な問題のため、完答しておきたい。	やや易
2	図形と方程式	円上を動く点 P と 2 点 A, B について、 $AP^2 + BP^2$ の最大値を求める問題。座標の設定を $A\left(\frac{1}{2}, \frac{\sqrt{3}}{2}\right)$ , $B\left(\frac{1}{2}, -\frac{\sqrt{3}}{2}\right)$ とすると、処理が簡単になる。	やや易
3	整数（式をみたす整数）	(1) 自然数の平方を 8 で割った余りに関する証明問題。 $n$ を 8 で割った余りで場合分けをすればよい。 (2) 整数解を求める問題。 $n^2$ が奇数であることに気づけば、素因数分解の公式が利用できる。	易
4	確率（2 次方程式の係数の組合せ）	(1) は $c$ が 3 重解の場合を見落とさないことがポイント。(2) は最初に、2 次方程式の自然数解を決定すると考え易くなる。	やや易

#### 合格のための学習法

今回は基本的な問題が多く出題されており、文理共通問題についても例年と比べ取り組みやすくなっている。全体として高校段階での内容をしっかり学習しておけば十分に対応できる内容であった。計算量が多くないこともあり、1 つの計算ミスが合否に大きく関わってくるだろう。後悔をしないよう、日ごろから丁寧に計算の訓練をしてほしい。また、証明問題については出題されることが多いため、解答の書き方についても練習しておきたい。様々な分野をバランスよく学習し、誘導のない問題への対応や、計算量を抑えられる解法ができるようになろう。